Pray for Japan

パルシステム東京　東日本大震災復興支援活動報告書 2013

■ Pray for Japan 2013 発刊に寄せて・・・・・・・・・・p.1
■ 復興支援・災害対策活動（2013.4.1 ～ 2014.3.31）・・p.1~2
■ 復興支援・災害対策方針・・・・・・・・・・・・・・・p.3
■ 復興支援活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.3~9
■ 災害対策活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.10

生活協同組合 パルシステム東京

－Ｐｒａｙ ｆｏｒ Ｊａｐａｎ 2013 発刊に寄せて－

被災地・被災者を“忘れない”復興支援活動を！

生活協同組合パルシステム東京
専務理事　佐藤　功一

東日本大震災から３年が経ち、被災地では復興に向けた様々な取り組みが行われています。しかし、原発事故のあった福島県では、いまだに県外へ避難されている方が４万５千人以上もいます。故郷へ戻りたくても戻れない現状や、慣れない地域での生活などの課題が山積しており、真の復興に向けた復興住宅の建設や、雇用の創出、そして地域産業の再生は遅々として進んでおりません。

パルシステム東京は 2014 年度から新たに組合員の復興支援活動を資金面で支援する『震災復興支援基金』（仮称）を創設いたします。

また、福島の子どもたちを対象にした保養企画や、福島県で放射能の検査や学習などの啓発活動に取り組んでいる団体を支援する『福島の子ども支援カンパ』の実施、被災地・被災者の実情を知るための学習会やスタディツアーを開催いたします。

これからも多くの組合員の皆さんのご理解とご協力のもと、他団体とも連携しながら、被災地・被災者を“忘れない”、息の長い支援活動に取り組んでまいります。

主な復興支援・災害対策活動（2013. 4．1～ 2014. 3.31）

4月4日	「パル・パラソルカフェ in 大山団地」（2012 年８月開催）の売上金を被災者支援に寄付したことに対して、立川市から感謝状が贈呈される。贈呈式に役職員２人が出席
5月 10 日～ 11 日	「福島スタディツアー企画視察」に役職員５人を派遣
5月 16 日	防災意識を高めるために地域の防災に関する様々な情報を把握する「わが街減災 MAP シミュレーション」を「用賀委員会」で開催
5月 31 日	「わが街減災 MAP シミュレーション」の講師を「練馬区生協連絡会」に派遣
6月	災害時の停電対策として本部、事業所に発電機を配備
7月	震災後の事業継続・復旧に向けたマニュアル「事業継続計画」を策定
7月８日	新宿区に避難している被災者の会「青空会」のサロンへお茶菓子を提供
7月 11 日	東京都に避難している被災者支援団体等の連絡会「広域避難者支援ミーティング in 東京」に職員３人を派遣
7月 27 日	「青空会」の演劇上演会へお茶菓子を提供
7月 31 日	「みやこ映画生協」へ組織カンパ 10 万円を贈呈
8月３日～５日	東京災害ボランティアネットワーク「横山不動尊厄流しそうめんプログラム」に職員１人を派遣
8月７日～９日	パルシステム連合会主催の福島の子ども保養プログラム「新潟保養・自然学校」へ職員２人を派遣
8月９日	「青空会」のサロンにお茶菓子を提供
8月 30 ～ 31 日	日本生活協同組合連合会、福島県生活協同組合連合会主催の「福島県学習交流バスツアー」に職員１人を派遣
9月２日	震災出前講座を「中野区まこと幼稚園」で開催。保護者 250 人が参加
9月２日	災害時の事業継続の連携についてパルシステムの配送委託先４社との意見交換会を開催
9月 11 日	「被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針（案）」に対する意見書を復興庁へ提出
9月 16 日～ 10 月 11 日	原発事故被害者の救済を求める全国署名活動「子ども・被災者支援法の幅広い適用と早期実施　賠償の時効問題の抜本的な解決を求める請願署名」に協力、組合員から 22,728 筆の署名が寄せられる
9月 20 日	日本生活協同組合連合会主催の「つながろう CO・OP アクション交流会」（福島）に役員４人を派遣

9月28日	「震災復興支援基金(仮称)学習会」を開催、組合員6人、役職員31人が参加
9月28日	「福島支援カンパ贈呈先報告会」を開催
10月4日～5日	「福島復興応援スタディツアー」第1弾を開催。組合員23人、役職員9人が参加
10月7日	「練馬区生協連絡会」に、石神井公園駅周辺を歩いて防災の視点で街を点検してマップに記す「防災まちあるき」の講師を派遣
10月12日～14日	「南三陸横山第1・2仮設住宅秋祭り」の支援ボランティアに職員1人を派遣
10月23日	「青空会」との「おせち・クリスマス料理試食付き交流会」を開催し、32人が参加
10月26日～27日	「全労済エールフェスタ」に産直野菜販売ブース出展（台風のため販売中止、営業ブースのみ参加）
11月1日	学習交流会「私たちにできる復興支援とは」を開催。組合員10人、役職員8人が参加
11月11日～12月13日	「福島支援カンパ」（11月3回～12月3回）を実施。6,660,900円が寄せられる
11月15日～16日	「福島復興応援スタディツアー」第2弾を開催。組合員19人、役職員8人が参加
11月17日	足立区の「総合防災訓練」（第5中学校、さかえ公園の2会場）にブース出展
11月18日	「広域避難者支援ミーティングin東京」に職員1人を派遣
12月3日	「北東下町エリア協議会」で拡大学習会「防災二者択一ゲーム」を開催。組合員・役職員あわせて42人が参加
12月7日	2011年度実施の「パル・パラソルカフェ」開催場所の宮城県東松島市仮設住宅への視察を実施。組合員10人、役職員6人が参加
12月13日	センター長を対象に首都直下地震を想定した「図上演習」を実施
12月14日	「青空会」のサロンに会場とお茶菓子を提供
12月19日～20日	「福島県 消費者と生産者等の理解・交流促進事業 ふくしまの今…風評を吹き飛ばせ！」に職員2人を派遣
2014年1月14日	練馬・板橋センター地域活動会議で学習会「災害時の食を考える」と非常食の試食を開催。組合員15人が参加。職員向け企画も同日開催し、職員10人が参加
1月23日	「宮城県東松島市仮設住宅視察の振り返りの会」を開催。組合員7人、役職員9人が参加
1月25日	「狛江センター防災まつり」を開催。狛江市から担当者を招いた学習会を開催
1月28日	「青空会」のサロンに会場とお茶菓子を提供
1月29日	パルシステム東京と、足立区、パルシステム連合会の三者で「災害時における応急物資等の供給及び被災者への支援等に関する協定書」を締結
1月30日	「福島支援カンパ贈呈式」を開催
2月27日	「広域避難者支援ミーティングin東京」に職員2人を派遣
3月1日	シンポジウム「私たちは忘れない！ 3.11東日本大震災 その時～今～そして未来へ」を開催。組合員22人、役職員42人が参加
3月1日	「宮城県東松島市仮設住宅視察の振り返りの会」を開催。組合員7人、役職員3人が参加
3月8日	「原発のない福島を！県民大集会　郡山会場」に役職員4人が一般参加
3月11日	日本生活協同組合連合会主催の「つながろうCO・OPアクション交流会」（宮城）に職員2人を派遣
3月14日	「城北さくらエリア協議会」で拡大防災学習会「日常食を非常食に」を開催。組合員46人が参加
3月20日	「青空会」のサロン・映画上映会へ、会場とお茶菓子を提供
3月21日～24日	組合員の被災者支援活動「第2回福島のこどもたち保養プロジェクト 春ステイin東村山」に254,400円を資金援助
3月23日～25日	保養プロジェクト「パルシステム福島親子交流企画」を開催。パルシステム福島組合員・役職員16組37人が参加
3月26日～31日	組合員の被災者支援活動「ふくしまっ子リフレッシュin世田谷2014春」に454,179円を資金援助
3月27日	組合員の被災者支援活動「震災から3年 ―忘れないでそばにいるよ！交流昼食会＆復興のシンボル！スコップ三味線の演奏」に38,491円を資金援助
3月31日	組合員の被災者支援活動「原発被災地・子ども支援WEEK」に120,000円を資金援助（実施は5月10日）
3月	事業所へ投光器の設置を完了

東日本大震災支援活動ブログ
Pray for Japan

パルシステム東京の東日本大震災支援活動ブログでは、2011年3月からの復興支援活動を紹介しています。
パルシステム東京ホームページ（http://www.palsystem-tokyo.coop）より

2013 年度 復興支援・災害対策方針

＜優先して取り組むこと＞

1．復興支援活動を引き続き推進します。

◆ 組合員・他団体とともに、被災地・被災者の支援を継続的にすすめます。
◆「震災復興支援基金（仮称）」の創設の準備をすすめ、組合員の自主・自発的な震災復興支援活動を資金面で支援する制度を導入します。
◆ 東京電力福島第 1 原発事故被害者への支援活動として、福島支援カンパを継続して取り組みます。

2．災害時における事業継続と組合員の防災意識を高めます。

◆ 事業継続計画に基づく防災訓練や復旧対策に向けた仕組みの強化をすすめます。
また発生が予測されている首都直下地震、東海・東南海地震に備え、管理職を対象とした「図上演習」を実施します。
◆ 地域の状況に応じて行政などと連携し、学習会や災害訓練をすすめます。
また機関誌などを通じて、防災に関わる啓発活動をすすめます。

＜その他の取り組み＞

◆ 東京に避難している被災者への支援活動に取り組みます。
◆ 被災者の体験談や被災地の実情を理解する学習・セミナーを企画開催します。
◆「震災対策出前講座（わが街減災ＭＡＰシミュレーション）」の取り組みを広げます。
◆ 地域で身近に減災を考える参加型メニューや学習会の講師紹介等を提案していきます。
◆ 配送センターを帰宅困難者のための一時滞留施設として提供することを検討します。

◆ 組合員・他団体とともに、被災地・被災者の支援を継続的にすすめます

被災地・被災者への支援活動

■他団体と連携しながら、支援のあり方を探る

これまでの支援活動で培われた他団体とのネットワークを活かし、復興支援活動に取り組んでいます。

・8 月 3 日（土）～ 5 日（月）	東京災害ボランティアネットワーク「横山不動尊厄流しそうめんプログラム」に職員 1 人を派遣
・8 月 30 日（金）～ 31 日（土）	「福島県学習交流バスツアー」に職員 1 人を派遣
・9 月 11 日（水）	「被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針（案）」に対する意見書を復興庁へ提出
・9 月 16 日（月）～ 10 月 11 日（金）	「子ども・被災者支援法の幅広い適用と早期実施　賠償の時効問題の抜本的な解決を求める請願署名」（＊）を募集
・9 月 20 日（金）	「つながろう CO・OP アクション交流会」（福島）に役員 4 人を派遣
・10 月 12 日（土）～ 14 日（月）	「南三陸横山第 1 ・ 2 仮設住宅秋祭り」に支援ボランティアとして職員 1 人を派遣
・12 月 19 日（木）～ 20 日（金）	「福島県　消費者と生産者等の理解・交流促進事業　ふくしまの今…風評を吹き飛ばせ！」に職員 2 人を派遣
・2014 年 1 月 28 日（火）	原発事故被害者の救済を求める全国集会を開催、全国から 20 万筆の署名を国会へ提出
・3 月 8 日（土）	「原発のない福島を！県民大集会　郡山会場」に役職員 4 人が一般参加
・3 月 11 日（火）	「つながろう CO・OP アクション交流会」（宮城）に職員 2 人を派遣

＊子ども・被災者支援法の幅広い適用と早期実施 賠償の時効問題の抜本的な解決を求める請願署名
パルシステム連合会をはじめ、他団体と共同して取り組み、国会に提出。このうち、賠償の時効問題については、12 月 4 日に成立した「原賠時効特例法」において、民法の定めにある「3 年間」から「10 年間」へ、また除斥期間は「不法行為の時から 20 年」から「損害が生じた時から 20 年」となり、一定の成果に結びつきました。最終的に 2014 年 1 月 15 日を持って終了し、22,728 筆（6,206 枚）の署名が集まりました。

◆ 組合員・他団体とともに、被災地・被災者の支援を継続的にすすめます

保養プログラム「福島親子交流企画」

■東京で思いっきりリフレッシュ！「パルシステム福島親子保養企画」

2011 年度、2012 年度の開催に続き、４回目の福島の子どもたちを支援するための保養プロジェクトを開催。東京電力福島第一原発事故の影響を最も影響を受けている福島県。放射能に対する不安を声に出すことがはばかられるような風潮もある中、日常を離れ、東京での休日を楽しみました。

・開　催　日：3 月 23 日（日）～ 25 日（火）
・参　加　者：パルシステム福島組合員・役職員 16 組 37 人
・企画行程：
（１日目）平和の森公園フィールドアスレチック、大森ふるさとの浜辺公園での宝探し　パルシステム東京組合員親子２組６人、役職員８人も参加
（２日目）パルブレッド（パルシステムのパン工場）見学、自由観光　パルシステム東京職員６人も参加
（３日目）ユニセフハウス見学、パルシステム東京本部での昼食交流会　パルシステム東京組合員親子２組３人、役職員 22 人も参加

◆ 組合員の自主・自発的な震災復興支援活動を資金面で支援する制度を導入します

震災復興支援基金（仮称）の創設に向けて

■草の根の復興支援活動を資金面で支援

組合員の自主・自発的な震災復興支援活動を資金面で支援するため「震災復興支援基金」（仮称）の創設に向けた準備を進めました。

・9月28日（土）　「震災復興支援基金(仮称)学習会」を開催、組合員6人、役職員31人が参加。「震災復興支援基金」の設置に向けた共有の場として、基金概要や目的、組合員やグループによる支援活動等の報告を実施

・11月1日（金）　学習交流会「私たちにできる復興支援とは」を東京ウィメンズプラザで開催、組合員10人、役職員8人が参加。「今、こんな支援が求められている」「こんな支援を創りたい」をテーマに活発な意見交換を行い、基金の創設に向けた期待や課題を整理

・2014年3月　試験的な取り組みとして都内に拠点を持つ4つの復興支援活動に資金援助を実施

支援活動名	援助額
第2回福島のこどもたち保養プロジェクト　春ステイ in 東村山	254,400円
ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷　2014春	454,179円
震災から3年　―忘れないでそばにいるよ！交流昼食会 ＆復興のシンボル！スコップ三味線の演奏	38,491円
原発被災地・子ども支援WEEK	120,000円

◆ 東京電力福島第1原発事故被害者への支援活動として福島支援カンパを継続して取り組みます

福島支援カンパで継続的な支援を

■福島支援カンパ

福島県で、放射能から子どもたちを守る活動に取り組んでいる市民団体を支援するために組合員カンパを行っています。

・9月28日（土）　2012年度の「福島支援カンパ」贈呈先団体からカンパの使途と福島の実情について報告を受ける

・11月11日（月）～12月13日（金）　「福島支援カンパ」実施、カンパ金総額6,660,900円（贈呈先は下記参照）

・2014年1月30日（木）　2013年度の「福島支援カンパ贈呈式」を開催、贈呈先3団体から福島の現状や支援活動について報告を受ける

カンパ贈呈先団体	主な活動	贈呈額
未来の福島こども基金	福島の子どもたちを対象に沖縄県久米島「球美の里」で保養企画に取り組む。また、いわき放射能市民測定室「たらちね」では甲状腺の無料測定を実施	2,747,633円
子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト	子どもたちの放射線被曝の影響について実証研究等について機関誌ママレボを通じて、警鐘を鳴らす	2,037,833円
安全・安心・アクション（3a）in 郡山	母親の放射能に関する学習・啓蒙活動のほかに、放射能測定室を開設し微量放射線測定器での測定を実施	1,875,434円

○カンパの累計実績
（2012～2013年度）
1,981万7,200円

◆ 東京に避難している被災者への支援活動に取り組みます

東京都内の避難者への支援活動

東日本大震災から３年が経過した今も、都内には８千人近い避難者が生活しています。その多くは福島第一原発事故による放射能被害から逃れるために避難した福島県の方々です。

■青空会サロンへの継続的なつながり

パルシステム東京は新宿区に避難している被災者の会「青空会」が開催するサロン活動への支援として、お茶菓子や会場の提供などを行っています。

・開　催　日：７月８日（月）、27 日（土）、８月９日（金）、12 月 14 日（土）、2014 年１月 28 日（火）、３月 20 日（木）
・10 月 23 日（水）　組合員ボランティア４人の協力のもと、「おせち・クリスマス料理試食付き交流会」を新宿本部で開催。
　　青空会 14 人、組合員・役職員あわせて 18 人が参加

感謝状

生活協同組合パルシステム東京 殿

貴殿は平成二十三年三月十一日の東日本大震災において被災された方々のために義援金を寄附されたその厚志に対し深く感謝の意を表します

平成二十五年四月四日

立川市長 清水 庄平

■立川市から感謝状を受けました

４月４日（木）広域避難者支援のため、2012 年８月に立川市で開催した「パル･パラソルカフェ in 大山団地」の売上金全額を立川市に寄付したことに対し、立川市長から感謝状を受けました。

■広域避難者支援ミーティング in 東京への参加

東京都に避難している被災者支援団体等の連絡会「広域避難者支援ミーティング in 東京」に参加しています。「東京都生活協同組合連合会や、東京災害ボランティアネットワークなどと支援活動について協議を重ねています。

・開　催　日：７月 11 日（木）、11 月 18 日（月）、２月 27 日（木）

◆ 被災者の体験談や被災地の実情を理解する学習・セミナーを企画開催します

パル・パラソルカフェで訪れた被災地へ再び

■ 2014 年度組合員参加の支援活動に向けて

2014 年度の支援活動に向けた視察を実施。2011 年度に「パル･パラソルカフェ」（＊）を開催した４つの仮設住宅と社会福祉協議会を訪問し、現在の状況について情報収集を行いました。

・開　催　日：12 月７日（土）
・訪　問　先：宮城県東松島市
・参　加　者：組合員 10 人、役職員６人
　　＊ 2014 年１月 23 日（木）、３月１日（土）振り返りの会を開催

＊パル・パラソルカフェ
2011 年度に実施した宮城県東松島市仮設住宅での傾聴ボランティア活動。組合員 63 人、役職員 60 人が参加。

◆ 被災者の体験談や被災地の実情を理解する学習会・セミナーを企画開催します

福島復興支援スタディツアー

東日本大震災で被災した地域の中でも、地震と津波による被害に加え、原発事故の影響で復興が最も苦しい状況にある福島県。スタディツアーは、パルシステム福島の和田佳代子理事長の「福島に来て、今の福島の現状を知ってほしい」との呼びかけをきっかけに企画しました。

■福島復興支援スタディツアー

原発事故に起因する実害・風評被害で、復興が進まない福島の現状と、そのような中にあっても懸命に地域の復興に取り組む市民の活動などについて説明を受け、今後の支援のあり方について考える学習の場となりました。

○第１弾
- 開 催 日：10 月 4 日（金）～5 日（土）
- 参 加 者：組合員 23 人、役職員 9 人

○第２弾
- 開 催 日：11 月 15 日（金）～ 16 日（土）
- 参 加 者：組合員 19 名、役職員 8 名

【主なプログラム】
- **パルシステム福島からの報告**
- **居住制限区域などの視察**
- **ふくしまオーガニックコットンプロジェクトの学習と体験　など**

＜参加者のアンケートから＞

テレビのニュースでは映像の世界でしたが、現地をみて大変ショックを受けました。3.11 が目前を通り過ぎていくようでした。

国道沿いの除染作業の様子、田畑に山積みされた黒いビニールに、グリーンのシートおよそ東京では想像つかない状況にショックを受け、ここへ、住民を帰還させる政府のねらいが見えてきた。富岡駅前の手付かずの町なみも、目に見えない放射能の怖さを思い知らされた。住人の方々の無念を思うと涙がでた。バスで連れていっていただき、大変良かったです。

富岡町の手付かずの被災地を見れたのはとても良かった。除染の草等をいれた黒い袋はとても異様な光景。
ホテルで見た地元新聞で第一原発の廃炉に向けて作業している方々の被曝問題はもっと考えなくてはいけないと思った。

除染がどのように進められているか、どの程度人が居るのかも分かりましたし、無人地帯がどうなのか、実際そのとき、その場に居合わせた人がどう思っているのかは、テレビではわからないことで、大変衝撃をうけた。

食品の放射能を検査する機器を初めて見た。説明がわかりやすかった。

パルシステム福島いわきセンターの放射能測定器

被災直後の混乱の中でも、いち早く自分のできることやるべきことを見つけ、行動に移して敢然と立ち向かっていく姿には心を打たれ勇気を逆にいただきました。これからも困難や不安なことにぶつかることがあってもきっと乗り越えて前進していかれると思いました。応援しています。

大変な経験をされても前を向いて頭と体を使って活動を続けている福島の方たちに、自分は何をどうしたらよいのか？企画していただければ参加協力したいという消極的な自分が歯がゆいけれど、今後も支援し続けたいの気持ちは強く持った。以前よりもさらに。パルシステムのこういう企画だと、女一人でも参加しやすいのがありがたい。そして、道中、色々な方と意見交換でき，得るものが多いのも魅力の一つと思っている。

質問で、「私達に何ができますか？」に対し、『自分がしたいことをする、自分が見たことを伝える、ライフスタイルを変える、人が困っていたら手を貸す』、事が大切であると答えられて、私も心のモヤモヤがその言葉で流されたようで涙が出てきました。１回だけでなく、また行きたいです。

商店街の一つのブースの中で震災当時の写真が沢山貼られていたのですが、今まであまり目にすることのなかった火災の写真がとても心にぐさっとささりました。

まちづくりが復興につながるとのこと。仲間を一人ずつ増やしコミュニティの集まりが「まち」という考えで、前向きに活動している若い方々に教えられることがいっぱいありました。

福島の浜通り地区で出会った方々から、「福島で見たことをみんなに話して欲しい！また福島に来て！忘れないで！」と切実な声を聞きました。又、熊本の水俣の安全宣言までの道のりを参考にしていることも知りました。復興までの道のりは長くかかると思いますが、諦めずに希望を持っていただきたいと願っています。有意義なツアーに参加できた事を感謝いたします。

このような形でパルシステムさんとつながったことは初めてでしたが(いつも配達された商品を受け取るだけという受動的な立場でしたので)「生協」という組織への関心が深まりました。次回機会があれば是非参加したいと思っています。

慣れない作業でしたが、楽しい体験でした。コットンとオリーブと福島の夢が広がることを祈ります。消費者、特に女性の意見を大切にしたいとおっしゃる謙虚さに胸をうたれました。どうして、こんな素晴らしい土地に原発を作ってしまったのか、悔しいです！

いわきの現状を勉強することができました。何が支援につながるのだろう、と思っていましたが、福島に足を運んで人に出会うだけでも少し意味はあるかもしれない、と感じました。普段の自分もしっかりやって、また福島へ戻ってきたいと思います。

今回の企画がなければ思いはあっても「福島」の地を訪ねる機会は私にはありませんでした。企画に感謝です。果たしてその後、「ただ来てくれるだけでいいですから」の呼びかけに応えるには、東京の周りの人に少しずつ語っていこうと思っています。

◆ 被災者の体験談や被災地の実情を理解する学習・セミナーを企画開催します

東日本大震災から３年　～私たちは忘れない！～

■シンポジウム「私たちは忘れない！ 3.11 東日本大震災 その時～今～そして未来へ」

「被災地･被災者を忘れない」をキーワードに、「福島」に焦点を絞り、被災地からの報告と組合員との昼食交流、映画「福島 六ヶ所 未来への伝言」を上映しました。

・開 催 日：３月１日（土）
・参 加 者：組合員 22 人、役職員 42 人

パルシステム福島
理事長　和田 佳代子さん

パルシステム福島は今、地域の信頼に応えるべく、「災害に強く、災害時に役立つセンター機能の強化」を掲げています。配送センターに太陽光発電ならびに蓄電機能を導入し、省エネ型センターへの転換を図るほか、2014 年２月に新設された郡山センターでは井戸を掘削して断水対策を図るなど、災害時に支援活動の拠点となれるよう事業を展開しています。

福島の現状をより多くの人に見に来てほしいと、地域の NPO とも連携し、福島復興スタディツアーを企画・開催しています。パルシステム東京でも 2013 年 10 月・11 月にスタディツアーを２度、開催しました。

震災および原発事故によって「フクシマ」として世界に知られるようになった福島県。「フクシマ」を忘れることなく、「フクシマ」を「福島」に戻すためにも、まずは観光やスタディツアーなどで足を運んでほしいと呼びかけられました。

3.11 後、多くの方が浜通りから会津へ避難できたものの、お店に売っているものが何もなくなってしまい、パルシステムの青果部門の子会社であるジーピーエスに「バナナありませんか」と問合せたことが、舟窪さんの復興支援活動の始まりだった、と当時を振り返りました。

その後は、やはり「放射能との戦い」。出荷制限が解除された後も、「本当に食べてもらえるのか」といった不安があり、「本当に安心して食べてもらうためには、自分たちが安全性をきちんと確認するよりほかない」と放射能検査の重要性を痛感。多くの生産者が検査をしたくてもできない状況で、パルシステムの検査体制は心強かったといいます。除染活動などの努力の甲斐もあり、あいづグリーンネットワークの生産物は ALL「ND（not detected）」＝検出限界値以下を継続しています。また、「食べて応援」だけでなく、「産地へ行こう」ツアーで実際に会津に訪問してくれることにも大変感謝しています。

あいづグリーンネットワーク
舟窪 満さん

NPO 法人ザ・ピープル
理事長　吉田 恵美子さん

NPO 法人ザ・ピープルでは古着リサイクルを中心に障がい者福祉・海外支援・社会教育などの活動を行っていました。常に古着のストックを持っていたため、行政を通じて地域内の火災・罹災家族への古着の提供を行うことがあり、「私たちは、いざというときに災害救援活動ができる」とのメンバーの気付きが、3.11 東日本大震災の後の活動にもつながりました。御用聞きスタイルでの救援物資配布、自炊による炊き出しなどで避難所支援を実施した後、復興支援のフェーズに入ってからも小名浜地区交流サロンの開催を続けています。

現在、吉田さんは「いわきおてんと SUN プロジェクト」の３つの NPO によるプロジェクトを通じて、住民主体の復興まちづくりを進めています。栽培の難しい在来種の茶綿を有機栽培して新たな産業を創出する「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」、市民が主役となって自然エネルギーの活用を進める「市民コミュニティ電力プロジェクト」、いわきならではの学びのツアーを企画する「被災地スタディツアープロジェクト」。地域コミュニティの再生を願うこれらの取り組みを通じて、より多くの人がプロジェクトに加わり、色んな気付きを得て、それぞれの地域に持ち帰って活動してほしい、と訴えました。

◆ 災害時における事業継続と組合員の防災意識を高めます

地域で身近に減災を考える

■事業継続計画に基づく防災訓練や復旧対策に向けた仕組みの強化

発生が予測される首都直下地震、東海・東南海地震に備えるため、設備やマニュアルの整備と防災訓練を実施しました。

- ６月　災害時の停電対策として本部、事業所に発電機を配備
- ７月　震災後の事業継続・復旧に向けたマニュアル「事業継続計画」を策定
- ９月２日（月）　災害時に事業継続の連携についてパルシステムの配送委託先４社との意見交換会を開催
- 12 月 13 日（金）　センター長を対象に首都直下地震を想定した「図上演習」を実施
- 2014 年３月　事業所へ投光器等の設置を完了

＊パルシステム東京のその他の防災の取り組み
災害時の情報収集を容易にするために、全事業所に MCA 無線を配備し、無線操作訓練を毎月実施しています。
また、災害時に職員の安否確認を迅速に集約するために、「安否確認システム」を導入し、定期的に訓練を行っています。

■配送センターを帰宅困難者のための一時滞留施設として提供

１月 29 日（水）、パルシステム東京と、足立区、パルシステム連合会の三者で「災害時における応急物資等の供給及び被災者への支援等に関する協定書」を締結しました。
足立センターを支援活動の拠点として、災害発生時には、足立区からの要請に基づき、避難者等へ支援物資や、一時避難場所の提供等を行ないます。

■地域の状況に応じて行政などと連携した学習会や災害訓練を実施

- ５月 16 日（木）　防災意識を高めるために地域の防災に関する様々な情報を把握する「わが街減災 MAP シミュレーション」を「用賀委員会」で開催
- ５月 31 日（金）　「わが街減災 MAP シミュレーション」の講師を「練馬区生協連絡会」に派遣
- ９月２日（月）　「中野区まこと幼稚園」で震災出前講座を開催。保護者 250 人が参加
- 10 月７日（月）　「練馬区生協連絡会」に、石神井公園駅周辺を歩いて防災の視点で街を点検してマップに記す「防災まちあるき」の講師を派遣
- 11 月 17 日（日）　足立区の総合防災訓練（第５中学校、さかえ公園の２会場）に、ブースを出展。行政との連携を通じ支援協定の相互理解を深めることを目的に、足立区の要請を受けて実施。防災意識啓発のための非常食や防災用品の展示、子ども向けのパソコンクイズ、防災啓発のパネル展示等
- 12 月３日（火）　「北東下町エリア協議会」で拡大学習会「防災二者択一ゲーム」を開催。組合員、役職員あわせて 42 人が参加
- 2014 年１月 14 日（火）　練馬・板橋センター地域活動会議で学習会「災害時の食を考える」と非常食の試食を開催。組合員 15 人が参加。同日、職員向け企画も開催し、職員 10 人が参加
- １月 25 日（土）　「狛江センター防災まつり」を開催。狛江市から担当者を招いた学習会を開催
- ３月 14 日（金）　「城北さくらエリア協議会」で拡大防災学習会「日常食を非常食に」を開催。組合員 46 人が参加

パルシステム東京 東日本大震災復興支援活動報告書 2013

Pray for Japan

発　　行：生活協同組合パルシステム東京
発 行 日：2014 年 6 月 9 日
発行部数：1,000 部
住　　所：〒169-8526 新宿区大久保 2-2-6 ラクアス東新宿 7 F
E - m a i l：palsystem-tokyo@pal.or.jp
印　　刷：スピックバンスター株式会社